



ひしのみ

山形市立明治小学校
 学校だより
 R3.10.6 発行
 第9号
 校長 横山 聡

運動会を自分達でつくるために…

新型コロナ感染症予防のために、約1か月ほど開催を遅らせることとなった運動会ですが、9月28日(火)の昼休み時間に、運動会の係紹介・結団式が行われました。本来なら、全児童が体育館に集まってみんなで応援をして大いに盛り上がる場面ですが、今年度はタブレットを活用してのリモート集会となりました。赤白応援団と係の紹介と運動会への思いが次々と伝えられ、各教室で大きな拍手が起こりました。コロナ禍ではあっても、子ども達の主体性や協働性を大切にしながら活動のスタートを切ることができて大変うれしく思いました。

今年度もたてわり班活動や委員会活動は大きな制限をうけています。そのような状況の中、学校のリーダーである6年生にとって、運動会は貴重な活躍の場です。「勝負はついたけれど、赤白ともに全力で戦った。思い出に残る運動会を自分達でつくった!」と71名全員が思えるような取り組みにしていきたいと考えています。

運動会は体力の向上はもちろん、責任感や連帯感の涵養も大きなねらいとなっています。子どもたちが、主体的・協働的に課題解決しながらよりよい運動会をめざして学習するための活動が係活動です。そこで、今回は4年生から6年生全員が取り組んでいる係活動の様子を紹介します。

係は、実行委員、赤白応援団、花笠リーダー、応援看板・装飾、放送、グラウンド整備の6つです。



実行委員 運動会全体の運営の中心となります。

10月4日(月)昼の校内放送で実行委員から今年度の運動会スローガン「赤白鍛え合い 完全優勝!!」が発表されました。「赤と白が鍛え合って、一人一人みんなと協力し合い、心をつなげて最高の運動会にしてほしい」という思いが込められています。



花笠リーダー 下学年と上学年の踊りを指導します



応援看板・装飾 盛り上げるための看板やグッズを制作します



放送 アナウンス、原稿作成、BGM選定などの仕事をします

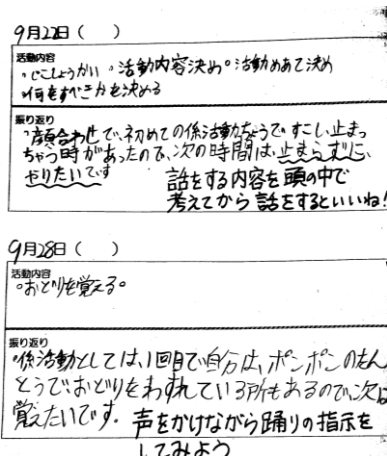


グラウンド整備 ライン引きやグラウンド整備をします。



赤白応援団 応援合戦だけでなく、勝利をめざして競技の作戦を立てるなど、リーダーとして組をまとめます





子ども達は、「運動会係ノート」に、めあてや日々の活動のふりかえりを記録しています。

係の担当職員はそれを読んで、励ましやアドバイスの言葉をかけたり、コメントを書いたりして子ども達の活動を支えるようにしています。

全国学力学習状況調査の結果を受けて

前期通知表配付の折に、6年生の保護者の皆様には、今年度の全国学力・学習状況調査の結果と、それを受けて本校で意図的に取り組んでいくことについて文書にて詳しくお伝えしました。その中から、特に重要な点を抜粋して紹介します。

1. 傾向と対策について

《国語》

- 文章の構成を捉えて中心となる事柄を読み取ることはできるが、的確に文章を要約したり、相手に伝えるための文章構成を工夫したりという力が不十分であることが考えられます。
- 読解の授業で学習したことを活用して表現する場面を多く設定すること、その中で正確な表現やより相手に理解してもらえるような表現を工夫していくことを大切にします。
- 教科学習や児童会活動の話し合いでも、伝えたいことの中心を明確にすること、事実と意見を整理することなどを大切にして聞いたり話したりするようにします。
- 学校と家庭が連携して読書時間が増えるような取組みを推進します。

《算数》

- 小数を用いた「倍」の問題は解けているが、商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の問題で立式することにつまずきがある傾向がみられます。かけ算（「全体の量」＝「1あたり量」×「いくつ分」とわり算（「1あたり量」＝「全体の量」÷「いくつ分」）、「いくつ分」＝「全体の量」÷「1あたり量」の区別）の理解が不十分であることが考えられます。
- 時速は「1時間あたりに進む距離（km/時）」、ガソリンの値段は「1リットルあたりの値段（円/L）」で表されたりすることなど、日常的に使われている「1あたり量」を再確認します。

※ 国語・算数ともに授業や生活の中で活用場面を多く設けることを大切にしていきたいと思います。（授業で学習したことを生活で活用する。生活での課題を学習材とする。）

2. 児童質問紙（学習・生活状況等）の結果から

- 多くの子は、家庭での学習習慣が身につけていて、計画的に取り組んでいるようです。読書についても、県や全国と比べて親しんでいる児童の割合が高くなっています。
- 「自分にはよいところがある」（自己肯定感）が非常によい結果でした。家庭や友人間で尊重されているからこそであって、大変うれしいことです。また、「いじめはいけないこと」「人の役に立つ人間になりたい」と考えている児童の割合も100%となっています。自立していくために大切な感情や価値観が育まれていると考えられます。
- △ 心配な点は、インターネットやゲーム等についてのルールを守っている児童の割合が低いこと、使用時間が長い児童の割合が高いということです。就寝時刻も遅い傾向がみられます。

インターネットやゲームとどのようにかかわっていくべきかもう一度きちんと考えてみる必要があるようです。